

〔保健福祉部 健幸長寿課 所管〕

03010302 シニアクラブ活動助成事業

決算書P. 199

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	2,419	2,445	26	
国庫支出金				
県支出金	520	478	△ 42	高齢福祉対策費補助金
地方債				
その他	1,407		△ 1,407	
一般財源	492	1,967	1,475	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブの活動をより一層活性化し、高齢者の生きがいや健康づくりを推進する。

【今年度の取組】

高齢消費者見守りサポーター養成講座では、過去に同講座を受講した方を中心として、市内の消費者被害を実例に、犯罪手口及び防止のポイントを学習した。(受講者数：37名)

第5回健康麻雀大会を参加全クラブで組織する実行委員会の運営により、9月に開催した。(参加者数：112名)

なお、3月の第6回大会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。

視察研修は水害対策の見識を深めるため、首都圏外郭放水路及び関宿城博物館を視察した。(参加者数：39名)

常総運動公園体育館においてシニアスポーツ大会を開催した。(参加者数：283名)

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
シニアクラブ会員数	人	820	956	987	1,100
スポーツ大会参加者数	人	614	593	600	650

【成果の動向】

各単位クラブにおける地域での勧誘活動等により、会員数は引き続き増加傾向にある。健康麻雀大会等における会員による自主運営も進捗し、会員相互の交流が図られている。

【今後の事業の方向性】

新規クラブ設立の支援や既存クラブでの声掛け等により、会員数を増加させることで、シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブの活動をより活性化し、高齢者の生きがいや健康づくりを推進する。



シニアスポーツ大会

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	14,795	15,036	241	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	14,774	15,036	262	地域福祉基金繰入金(ふるさと納税) 老人保護措置費負担金
一般財源	21		△ 21	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

65歳以上の高齢者で環境上の理由及び経済的理由により、在宅での生活が困難な方の安心安全な生活の場を確保する。

【今年度の取組】

今年度は5名を入所措置している。措置者入所継続の可否については、措置者の日常生活動作時の状況を施設担当者から把握し継続と判断した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
入所措置人数	人	8	6	5	5

【成果の動向】

65歳以上の高齢者で環境上及び経済的理由により在宅での生活が困難な方の安心安全な生活の場を確保できており、成果は持続している。

【今後の事業の方向性】

環境上及び経済的理由により自宅で生活が困難な場合、養護老人ホームへ措置して安定した生活を確保する。

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,116	1,058	△ 58	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	1,116	1,058	△ 58	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

65歳以上のひとり暮らし高齢者を定期的に訪問することで安否確認及び孤独感の解消を図る。

【今年度の取組】

定期的な訪問により安否確認を行った。
不在で安否確認ができない場合には、緊急連絡先の親族やケアマネジャー等と連携を図り、対象者の安否を確認した。
市のホームページで事業内容案内を掲載し、ケアマネジャーや民生委員、窓口来庁者に対して事業周知を行った。
熱中症予防訪問時には、事業内容の説明を行った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
安否不明等連絡件数	件	83	82	71	80
家族等に緊急連絡が必要になった件数	件	0	3	4	0

【成果の動向】

定期的な訪問の継続により、安否不明の連絡件数は減となっている。また、別に暮らす家族の安心も得ることができた。

【今後の事業の方向性】

事業の周知に努め、安心して暮らせる地域づくりの一端となるように利用促進を図る。

03010305 ひとり暮らし高齢者緊急通報体制等整備事業

決算書P. 201

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	228	312	84	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	228	312	84	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

ひとり暮らし高齢者等の急病や事故等のため救助を必要とする際の消防署への通報体制を整えることにより、迅速な対応を行うことができることから、在宅生活での不安を解消する。

【今年度の取組】

電池交換及び保守点検を実施し、機器の管理を行った。(隔年実施)

市ホームページへの事業内容の掲載、また、ケアマネジャー、民生委員、窓口来庁者に対し事業の周知を行った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
緊急通報利用回数	件	9	4	3	5

【成果の動向】

ボタンを押すだけの簡易な方法で消防本部へ通報できることから、ひとり暮らし生活の緊急時の不安を解消することができた。件数は横ばいだが、緊急時には即座に救急搬送などの対応ができた。

【今後の事業の方向性】

緊急事態に備えて機器を設置することで、ひとり暮らしの不安を解消する。

現状の機器の設置は、アナログ回線のみが利用対応可能で、光回線等の場合は利用ができない。そのため、次年度においては、他市の事例等を参考にし、設置機器については、民間におけるシステム導入の検討を図る。

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,257	1,299	42	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	1,257	1,299	42	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

高齢の節目を迎えた方々に、長寿の喜びを感じていただき、生きがいをもった生活をしていただく。

【今年度の取組】

支給方法は、単に贈呈するだけでなく、安否確認や見守りといった効果も期待できる民生委員による手渡しが適当と判断した。今年度も88歳・99歳・100歳以上の方に祝金を支給した。(100歳の方は、市長からの贈呈)

88歳： 180人

99歳： 25人

100歳： 11人

101歳以上： 16人

合計： 232人

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
支給人数	人	549	228	232	320

【成果の動向】

高齢者に敬意を表し長寿をたたえるため、人生の節目に当たる年齢時の祝金支給であり、成果は維持している。

【今後の事業の方向性】

平均寿命の伸びに伴い支給対象者数及び支給額の増加が見込まれるが、長寿を祝福する事業であり継続していく。

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	3,100	3,100		
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	3,100		△ 3,100	
一般財源		3,100	3,100	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

シルバー人材センターは、60歳以上の高齢者の労働能力や技能を活用し、地域社会に密着した短期的な就業の機会を提供している。シルバー人材センター事業の円滑な推進を支援するため、補助金を交付することなどにより、高年齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会への参加を図る。

【今年度の取組】

対応できる事業は限られているが、利用される方の要望に対し、できる限りの対応に努めるよう支援した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
就業人数(延べ)	人	42,924	37,902	36,370	39,282
就業人数	人	355	306	285	327

【成果の動向】

事業の円滑な推進により、働く意欲がある高齢者の生きがいの充実と社会参加を図ることができた。

【今後の事業の方向性】

シルバー人材センターの財政助成や会員増加等への支援により、健全な運営を継続し、引き続き高齢者の生きがいの充実と社会参加を図る。

03010311 軽度生活援助事業

決算書P. 203

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	813	742	△ 71	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	144	106	△ 38	軽度生活援助派遣納付金
一般財源	669	636	△ 33	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

対象者は、要介護認定を受けていない①65歳以上のひとり暮らしの方②65歳以上のみの世帯に属する方とし、自立した在宅での生活を継続してもらうことを目的とする。

(ただし、市民税が課税されている方及び市民税が課税されてる方と生計を一にする方は除く。)

【今年度の取組】

利用者の自立した生活を支えるため家事支援を行うとともに、引き続き市ホームページへの事業内容の掲載や、チラシを配布して事業の周知を行った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
利用人数	人	15	10	9	15
利用時間数	時間	1,980	601	439	1,000

【成果の動向】

家事支援を行うことで、高齢者の心身の負担を軽減し、自立した生活を継続することができるが、利用状況はやや減少している。

【今後の事業の方向性】

自立した生活を継続するため、家事支援を行う。

潜在的な利用対象者がいると思われるため、事業周知に努め、利用促進を図る。

【財源内訳】

(単位:千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,179	679	△ 500	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	653		△ 653	
一般財源	526	679	153	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

高齢者の生きがいづくりの機会と社会参加の促進を図ることを目的とする。高齢者が地域において趣味の活動や仲間との交流を行うことにより、生き生きと暮らせる社会を目指している。

サロンの開催場所が増えることで、高齢者の身近なコミュニケーションの場が増え、高齢者が孤立しない状態になることが期待される。

【今年度の取組】

高齢者のみ世帯、ひとり暮らし高齢者が増加して行く中で、歩いて参加できるサロンが増え、高齢者のコミュニケーションの場となることで、高齢者が孤立しない状態になることから、地域づくりとしてのサロン活動は重要なものである。

市のホームページやチラシ等でサロンの周知を図った。

サロン活動の円滑な運営のため、運営ボランティアとの情報共有会議を開催した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
参加人数	人	781	1,255	1,300	1,400

【成果の動向】

高齢者の地域における集える場所、交流の場所づくりを支援することで、高齢者の生きがいづくりや介護予防につながっており、成果は向上している。

【今後の事業の方向性】

高齢者数が増加するなか、サロン活動は気軽に集える地域の場としての必要性が高い。身近な地域にサロンが設置されることが望ましいが、身近なサロンが設立していない地域が見られることや運営ボランティアの高齢化等の課題がある現状である。

サロン活動の継続した運営を図るため、運営ボランティアの地域での人材発掘や育成に努めていく。

【財源内訳】

(単位:千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	2,211	811	△ 1,400	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他		811	811	地域福祉基金繰入金(ふるさと納税)
一般財源	2,211		△ 2,211	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

高齢者を敬い、高齢者と地域とのつながりづくりや世代間交流による絆づくりを形成する。

【今年度の取組】

まちづくり協議会が設立されていない守谷地区（A，B，C，Eブロック）において敬老行事を開催した。
参加者数849人（75歳以上334人）

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
敬老行事開催団体数	団体	-	12	4	1
75歳以上参加者数	人	-	978	849	300

【成果の動向】

各地区で敬老行事を開催することで、高齢者が身近な会場で行事に参加でき、地域の異世代との交流も図れている。

【今後の事業の方向性】

助成金については、まちづくり協議会が設立された地区に対しては、「まちづくり協議会活動支援交付金」による支援に移行する。